

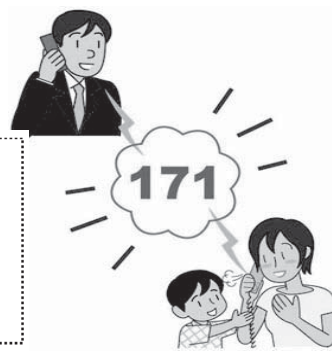
○ 災害用伝言ダイヤル「171（いない）」

NTT が開設する固定電話からの安否確認サービスです。

- 被災地
- ① 171 をダイヤル
 - ② 「1」（録音）を選ぶ
 - ③ 自宅（被災地）の電話番号（固定電話）をダイヤル
 - ④ メッセージの録音



- 被災地外
- ① 171 をダイヤル
 - ② 「2」（再生）を選ぶ
 - ③ 被災地の方の電話番号をダイヤル
 - ④ メッセージの再生

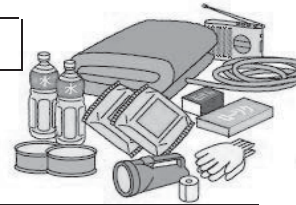


○ 非常持ち出し品

このほかにも女性や子ども、乳幼児、高齢者など、人によって必要なものが異なります。

飲料水・食品	生活用品
<input type="checkbox"/> 飲料水（1人最低 2ℓ 1本） <input type="checkbox"/> 非常食 <input type="checkbox"/> 補助栄養食品（チョコ、あめ等）など <input type="checkbox"/> （ <input type="text"/> ） <input type="checkbox"/> （ <input type="text"/> ）	<input type="checkbox"/> 携帯ラジオ、懐中電灯、ランタン <input type="checkbox"/> 乾電池、携帯電話（充電器、モバイルバッテリー含む） <input type="checkbox"/> ヘルメット・防災ずきん、ふえ、タオル <input type="checkbox"/> 軍手・手袋、マスク、防寒具、雨具 <input type="checkbox"/> 着替え、下着、靴下、生理用品 <input type="checkbox"/> 救急セット、常備薬、歯磨きセット <input type="checkbox"/> 紙皿、紙コップ、缶切り、栓抜き <input type="checkbox"/> 割り箸、ライター、万能ナイフ、 <input type="checkbox"/> ティッシュ、トイレットペーパー <input type="checkbox"/> ゴミ袋、簡易トイレ、ロープ、 <input type="checkbox"/> 筆記用具 など <input type="checkbox"/> （ <input type="text"/> ）
貴重品	
<input type="checkbox"/> 現金、預金通帳・印鑑 <input type="checkbox"/> 健康保険証、お薬手帳 <input type="checkbox"/> 免許証 など 男性で 15 kg、女性で 10 kg 程度までの量におさえましょう。 感染症対策としてマスクのほか、消毒液、体温計をできるだけ持参してください。	

非常持ち出し品の置き場所



○ 非常備蓄品

最低3日以上（できれば1週間）の備蓄に努めましょう。

飲料水・食料・調理器具類	生活用品
<input type="checkbox"/> 飲料水（1人1日3ℓ位） <input type="checkbox"/> 食料（米、加工食品、缶詰 など） <input type="checkbox"/> 調味料（味噌、醤油、塩 など） <input type="checkbox"/> カセットコンロ、カセットボンベ <input type="checkbox"/> キャンプ用の食器セット など <input type="checkbox"/> （ <input type="text"/> ） <input type="checkbox"/> （ <input type="text"/> ）	<input type="checkbox"/> テント、防寒防水マット・シート <input type="checkbox"/> 毛布、寝袋、ビニールシート、ロープ <input type="checkbox"/> 洗面用具、綿棒、脱脂綿 <input type="checkbox"/> バール、スコップ、工具セット <input type="checkbox"/> 簡易トイレ（1人1日5回分位） <input type="checkbox"/> ろうそく <input type="checkbox"/> トイレットペーパー <input type="checkbox"/> 避難行動要支援者が必要とするもの など <input type="checkbox"/> （ <input type="text"/> ）

非常備蓄品の置き場所



○ 家族のやくそくごと（カード）

避難所やかかりつけの医療機関など、緊急時に必要な情報を記載して、家族全員で共有するためのカードです。財布やパスケースなど、常に持ち歩くものの中に入れておきましょう。

近江八幡市では、9月1日の「防災の日」の直近である8月最終日曜日を「近江八幡市防災の日」としており、家族でもこの日を「家庭防災の日」として、防災・減災について確認し合う、また、家庭の備蓄品を点検する日としましょう。



災害時 こんなとき、どうする？



災害はいつ・どこで発生するか分かりません。日頃から「自分（家族）の命は、自分で守る」ためにどのようなことが必要か、このシートを使って家族で話し合ってみましょう。

○ 我が家の避難先

・一時避難場所

一時避難場所とは、災害時に身の安全を守り、また安否確認を行う場所です。最寄りの一時避難場所を確認しましょう。

・避難所

最寄りの避難所を確認しましょう。

・避難経路

被災の状況で異なるため、一時集合場所や避難所までの複数の避難ルートを確認しましょう。



・家族の集合場所

災害発生時、家族と連絡が取れないとき、家族が集まる場所を決めましょう。

○ 緊急連絡先

家族の緊急時の連絡先を確認しましょう。また、連絡手段を確認しましょう。

名前	会社・学校の連絡先	電話番号・メールアドレス
<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>

○ 防災情報を活用しよう

自分の身を守るために、いつ、どんな情報をどこで入手すればよいか知っておきましょう。



など

○ 避難するときは

夜間の移動や道路がすでに冠水している場合など、避難所に行くことがかえって危険な場合には、水宅の2階以上へ「垂直避難」を行うなど、状況に応じてより安全な行動をとるようにしてください。

避難するときは…



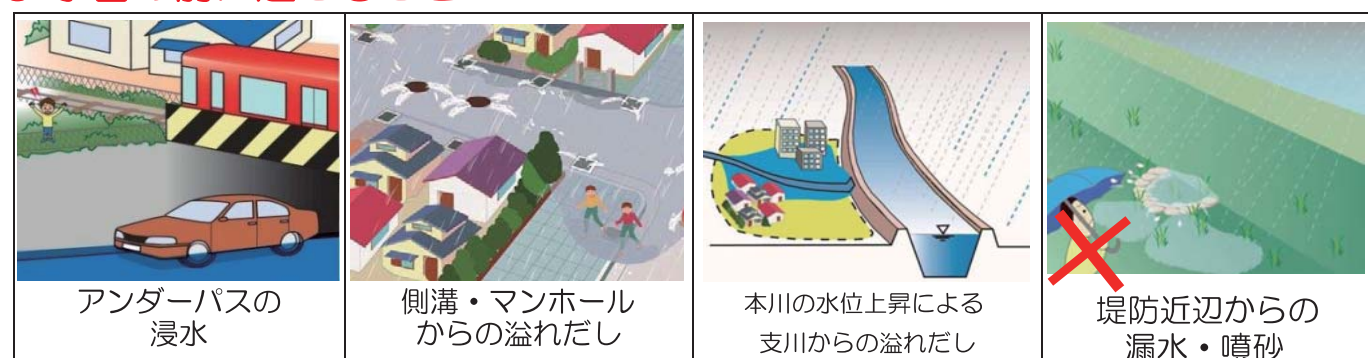
- 避難とは「難」を「避」けること。安全な場所にいる人まで避難する必要はありません。
- 日頃からハザードマップやインターネットなどで地域の危険度、市が指定する避難所などを確認しておきましょう。
- 安全な親戚・知人宅へ避難することも考えてみましょう。

✕ 「避難する」＝「避難所へ行くこと」

○ 「避難する」＝「安全を確保する行動」

(画像は松阪市HPから引用)

○ 水害の前に起こること



○ 土砂災害の前に起こること



この他にも、河川・斜面等に異常を感じた場合には、速やかに避難してください。

○ 地震が起こる前に

地震への備えをチェックしてみましょう。

<input checked="" type="checkbox"/>	チェック
<input type="checkbox"/>	脱出通路に障害になるものを置かない。
<input type="checkbox"/>	2階などからの脱出用に避難はしごを用意。
<input type="checkbox"/>	引き出しや観音開きの扉にはストッパーなどを取り付け、中身が飛び出さないようにする。
<input type="checkbox"/>	タンスや棚はL型金具などで壁の棧や柱に固定する。
<input type="checkbox"/>	寝室には、倒れそうなもの等を置かない。
<input type="checkbox"/>	就寝するときは、懐中電灯、携帯ラジオなどを置き準備。
<input type="checkbox"/>	頭の上にもものが落ちてこない所で就寝。

○ 地震が起こったら

地震が起こったら丈夫な机やテーブルなどの下にもぐり、机などの足をしっかりと握りましょう。また、頭を座布団などで保護して、揺れが収まるのを待ちましょう。揺れが収まるのを待ち、身の安全を確保し、適切な方法で避難しましょう。救出、救護が必要な場合は複数で協力して行いましょう。

自宅(起きているとき)

- 突然大きな揺れに襲われたときは、自分の身を安全に守れるように心がけましょう。
- 棚や棚に乗せてあるもの、テレビなどが落ちてきたりするので、離れて揺れが収まるのを待ちましょう。揺れが収まったら戸を開け、出入り口を確保しましょう。
- コンロの近くから離れ、揺れが収まったら落ち着いて火を消しましょう。
- あわてて戸外に飛び出さないようにしましょう。

自宅(寝ているとき)

- 暗闇では、割れた窓ガラスや照明器具の破片でけがをしやすいので注意しましょう。
- 就寝時は、枕元に厚手の靴下やスリッパを準備しましょう。
- ベッドの上部をフレームなどで覆い、寝ている人を保護する「防災ベッド」もあります。

家を出るとき

- 電気のブレーカーを切り、ガスの元栓を閉めましょう。
- 我が家の安全を確認後、近所にも声をかけて安否を確認しましょう。
- 外に出るときも周囲の確認を。ガラスや看板等が落ちてくる可能性があります。

運転しているとき

- 前後の車に注意しながらゆっくり速度を落とし、道路の左側に停車しましょう。
- エンジンを切り、揺れがおさまるまでは車外に出ず、カーラジオから情報を入手しましょう。
- 車のキーはつけたまま、ドアをロックしないで、窓を閉め避難しましょう。
- 連絡先が見えるところに書き、車検証などの貴重品を持ち、徒歩で避難しましょう。
- 車での避難は、緊急自動車などの妨げになりますのでやめましょう。

